

■ちーびし

○定例研究会報告 (第1回～第7回)

鹿児島大学全学総合プロジェクト「島嶼圏開発のランドデザインー南西諸島における環境ガバナンス型地域政策」では、2003年12月から、毎週第1水曜日に法文学部3階第2会議室におきまして、定例研究会を開催しております。定例研究会では、学内外の先生方に、奄美・沖縄における自然環境、サツマイモの特産化や自立的な経済発展の問題など、幅広いテーマで研究成果をご報告いただき、意見交換を行っております。そこで今回は、これまで行われた第1回から第7回の定例研究会について簡単にご紹介させていただきます。

なお、報告内容の詳細につきましては、掲載致しました各先生の報告関連論文をご参照下さい。

■第1回定例研究会 2003年12月3日

○報告者：神田嘉延先生（教育学部／教育社会学）

○報告題目：「離島・僻地の環境問題と地域の自立的発展」

○報告内容等

神田先生を中心とした研究グループが行った奄美・沖縄本島での現地調査研究（『環境問題と地域の自立的発展ー離島・へき地を中心にしてー』）にもとづいて、奄美の自立的発展の問題を中心に、沖縄、与論、沖永良部の赤土問題、農業開発と地域の自立的発展の関係、自然の権利訴訟と教育の関係、奄美における地域自治（自治公民館）など、幅広い問題についてご報告いただきました。

意見交換では特に、沖縄・奄美における農地改良事業と環境問題（赤土問題）の関係、沖永良部における共同体意識と土地所有形態の関係、与論・沖永良部における地域（住民）

自治と自治公民館制度の関係について議論が集中しました。

○関連文献等

神田嘉延編『環境問題と地域の自立的発展ー離島・へき地を中心にしてー』高文堂出版社（2004）

神田嘉延「神田嘉延編の出版の紹介と奄美研究の課題ー『環境問題と地域の自立的発展』（高文堂）』『奄美ニューズレター』、No. 2, 1-6頁（2004年1月）

■第2回定例研究会 2004年1月7日

○報告者：坂田裕輔先生（旧：法文学部経済情報学科，現：近畿大学／環境経済学）

○報告題目：「地域資源を利用した観光業の可能性に関する検討」

○報告内容等

屋久島を事例として、公共事業に依存しない、観光業を中心とした持続可能な循環的社会・経済への転換の可能性について、シミュレーション分析を交えながらご報告いただきました。またその中で、「入島協力金」導入の可能性や屋久島「原地区」への「滞在型ツーリズム」導入に向けた具体的な提言やその実践的取り組み（観光マップの作成等）についてもご紹介いただきました。

○関連文献等

坂田裕輔「離島地域の持続可能性向上に向けた産業育成手法ー屋久島観光業を題材にした検討ー」『奄美ニューズレター』、No. 3, 17-22頁（2004年2月）

■第3回定例研究会 2004年2月4日

○報告者：桑原季雄先生（法文学部人文学科／文化人類学，東南アジアの文化人類学）

○報告題目：「軍政下奄美の人類学調査」

○報告内容等

1951年9月、戦後間もない軍政下奄美で、シラキース大学教授ダグラス・G・ハーリング（アメリカ人）が行った人類学調査の分析と奄美の人類学調査研究における同調査の位置づけ等についてご報告いただきました。

○関連文献等

桑原季雄「軍政下奄美における人類学調査」『奄美ニューズレター』, No. 3, 10-16頁 (2004年2月)

■第4回定例研究会 2004年3月3日

○報告者：菅沼俊彦先生（農学部生物資源化学科／応用糖質化学）

○報告題目：「鹿児島県のサツマイモの生産と利用について」

○報告内容等

鹿児島県におけるサツマイモ栽培の歴史、生産や利用の状況、奄美におけるサツマイモ生産、環境保全自立産業としての農業生産についてご報告いただきました。

意見交換では、奄美におけるサツマイモやじゃがいもの特産化やそれらを加工した製品の開発等が話題になりました。

○関連文献等

菅沼俊彦「奄美におけるサツマイモ特産化の可能性」『奄美ニューズレター』, No. 5, 1-6頁 (2004年4月)

■第5回定例研究会 2004年5月12日

○報告者：采女博文先生（旧：法文学部法政策学科，現：法科大学院／民法学）

○報告題目：「奄美の入会権－入会地処分 of 全員一致原則－」

○報告内容等

島嶼における環境問題の法律的視点からの考察として、奄美大島瀬戸内町の入会権訴訟を事例に、「全員一致原則」の機能とその限界についてご報告いただきました。

○関連文献等

采女博文「入会権の全員一致原則の機能－奄美大島瀬戸内町の入会権－」鹿児島大学『法学論集』, 第38巻第1・2合併号, 27-79頁, (2004年2月)

采女博文「全員一致原則の機能と限界－奄美諸島の入会権を素材に－」『奄美ニューズレター』, No. 3, 1-6頁 (2004年2月)

■第6回定例研究会 2004年5月12日

○報告者：堀田満先生（鹿児島県立短大 長）

○報告題目：「奄美・沖縄の自然環境と人々の暮らし」

○報告内容等

南西諸島の自然環境や植物の分布及びその変化等についてご報告いただきました。

意見交換では、黒潮と日本国内の植物分布の関係や植生と文化の関係等が話題になりました。

○関連文献等

堀田満「九州南部から南西諸島の自然環境と人々の暮らし－交流と重層と隔離の歴史－」, 京都大学大学院人間・環境学研究科『人環フォーラム』, No.13, 40-45頁 (2003年)

堀田満「奄美の植物世界と人々」秋道智彌編『野生生物と地域社会－日本の自然とくらしはどうか変わったか－』昭和堂, 第2章, 156-182頁 (2002)

■第7回定例研究会 2004年6月9日

○報告者：皆村武一先生（法文学部経済情報学科／国際経済論）

○報告題目：「島嶼経済の持続的発展に向けて」

○報告内容等

自給自足経済から商品経済への移行に伴う農業生産方式の変化や農薬の使用により世界中で土壌劣化・汚染や森林資源の減少といっ

た環境破壊が引き起こされていること、奄美でも農業開発により土地の劣化や汚染が問題となっていること、また奄美ではサトウキビ、花卉、輸送野菜等の商品作物への生産集中が進み、結果として群島外部への依存の拡大や食料品の自給率の低下が進んでいること等が報告されました。

意見交換では、奄美自然の破壊と農業生産の変化及び土地改良事業（「奄振事業」）との関係、奄美農業生産の特性、今後の奄美発展の方向性、奄美各島（特に沖永良部）の歴史、島民性、地形的特性、農業の関係について議論が交わされました。

なお、皆村先生の報告と議論につきましては、次号『奄美ニューズレター』で詳しくご紹介させていただく予定です。

○関連文献等

皆村武一著『戦後奄美経済社会論—開発と自立のジレンマ』日本経済評論（2003）
（第30回南日本出版文化賞受賞）

（研究会事務担当／山本一哉／法文学部）

定例研究会での配付資料（研究会の様子はICレコーダーで録音し、電子ファイルの形で保存しております）や今後の研究会の報告者及び報告題目等につきましては、研究会事務担当の北崎浩嗣（099-285-7592）もしくは山本一哉（099-285-7595）までお問い合わせ下さい。